

中3国語



# 1章

## 【問題】(演習)

出典…齋藤孝『「できる人」はどこがちがうのか』／香川県立高校・03年

### 解答

問1 a 〓 教訓      b 〓 才覚      c 〓 技術      d 〓 満足

問2 3      問3 まま

問4 世界記録は、人間が破ることができないのではないか(という心理的な不安)〔24字〕

問5 1

問6 (先達のレベルを体感することによって)闇雲な不安を除去する効果があり、具体的な課題意識が生まれてくる(ようになること)〔31字〕

問7 4      問8 2



## 【添削課題】

出典…内田樹『寝ながら学べる構造主義』／早稲田大学本庄高校・04年

## 解答

問1 A国人とB国人は同じ一つの政治的事件について違う評価をする〔29字〕(23行目)

問2 (エ) 問3 (ア)

問4 アルジェリア戦争で、フランスのアルジェリア支配を批判し、アルジェリア人の民族解放に「絶対的正義」があると考えたこと。

問5 等権利的(24行目) 問6 孤(立無)援

問7 ものの見方、感じ方、考え方は属する時代、地域、社会集団により決定されてしまうので、自ずと自由や自律性も制限を受けてしまうことになるから。〔68字〕

問8 ①〓社説 ②〓脳裏 ③〓判 ④〓掘 ⑤〓功績

## 理解を深める

対立する二つの事柄について、かつてはどちらか一方に絶対的正義があると考えるが常識であったが、構造主義により世界の見え方は視点が違えば変わると考えるようになり、それぞれの見方は等権利的で、どちらが正しいかは容易に判断できないという意見が常識となった。〔125字〕

### 3章

#### 【問題】(演習)

出典：夏目漱石『草枕』／法政大学・改

#### 解答

- 問1 ① 〓 思慮 ② 〓 委細 ③ 〓 余地 ④ 〓 容赦 ⑤ 〓 絡

問2 戦争を強く意識する二人を船の前方に座らせ、戦争の実感がない二人を後方に位置させることで、戦争に対する対極的な意識を象徴的に表そうとしている。老人はその間に位置し、両者を理解する立場の人間として描かれている。

問3 誰：那美さん

どんなことば：生きて帰っちゃ外聞がわるい(13字)(18行目)

問4 4 問5 5

問6 私たちが久一と離れ離れになりたくないとどれだけ望んだとしても、久一が私たちから離れ、孤独に停車場から戦場に向かっていくという運命は変えることができない、ということ。



## 4章

### 【問題】(演習)

出典：『竹取物語』／ 共立女子高校・97年

#### 現代語訳

(無理難題を言われても) それでもやはり、この女と結婚しないでは、この世に生きていられないような気持ちでしたので、「インドにある仏の石の鉢を持って来ずにおくものか」と考えを巡らせて、石つくりの皇子は、見通しの利く人であって、「インドにも二つとない石の鉢を、たとえ百千里の道を行つたとしても、どうして手に入れられようか」と思つて、かぐや姫のもとには、「今日インドに仏の石の鉢を取りにまいります」と知らせたおいて、三年ほど(経つて)、大和の国の十市郡にある山寺で、賓頭盧の前にお供えをするための)鉢で、真っ黒に墨のついている鉢を取つて、錦の袋の中に入れて、造花の枝につけて、かぐや姫の家を持つてきて見せた。かぐや姫が不思議に思つて見てみると、鉢の中に手紙があると、広げて見てみると、

海山の……海を越え、山を越えて遥か道中で心を尽くして仏の石の鉢を探し回り、この石の鉢のために血の涙が流れたことよ  
かぐや姫は、「その鉢は光沢はあるのか」と思つて見たところ、螢ほどの光さえない。

置く露の……せめて露の光ほどこだけでも宿つていればよかつたのに。暗いという小倉山で何を探し求めたのですか  
と言つて(鉢を)返した。(皇子は)鉢を門口に捨てて、この歌の返歌をした。

白山に……(光っている鉢を持ってきたのですが)白山のように光り輝くあなたに会つてしまったので、(鉢の)光が無くなってしまったのかと思ひ、鉢を捨ててしまいました。(やはり本当は光る鉢だったのでないかと)鉢を捨てた後も、恥を捨てて期待しているのですよ

と詠んで差し入れた。かぐや姫は返歌もしなくなつてしまった。(かぐや姫は皇子の弁解を)耳にも入れなかつたので、(皇子は)弁解に困つて帰つてしまった。(皇子が)その鉢を捨ててしまつて、さらに(かぐや姫に)言い寄つたことから、厚かましく恥知らずなこ



とを、「はぢを捨てる」と言うようになったそうだ。

**解答**

問 1 1 || (ア) 2 || (ア) 問 2 て 問 3 A || 姫 B || 皇子

問 4 鉢と恥 問 5 ウ 問 6 (エ)

**理解を深める**

- ① 打消推量・連体形
- ② 打消・連体形
- ③ 使役・連用形
- ④ 過去・終止形
- ⑤ 自発・連体形
- ⑥ 完了・終止形

出典：『堤中納言物語』／立教大学・07年 改題

## 現代語訳

この男は、思い立つとじっとしていられない性分で、「ちょっと(行ってみよう)」と、新しい妻のもとに昼間なのにやって来るのを(侍女が)見て、「急に、殿(「男」)がいらっしやいましたよ」と言うので、(女は)くつろいでいたところだったので、慌てて、「(化粧箱は)どこ、どこに(あるの)」と言って、櫛の箱を引き寄せて、おしろいを付けて化粧をしていると思っていたところ、(実は)取り違えて、眉墨が入った畳紙を取り出して、鏡も持たないで、ざっと顔に塗らたてて、女は(侍女に向かつて)「『そこでちょっと待っていてください』、お入りにならないで下さい」と言って、無我夢中である。顔にこすりつけている時に、男は「こんなに早くも(私のことを)お嫌いになってしまったのですね」と言って、簾をかき上げて中に入ってきてしまったので、(女は)畳紙を隠して、いい加減にならして、口を(袖で)覆って、夕方近く暗いころに「うまく化粧を仕上げた」と思って(いたが)、(顔には)まだらに指の跡がついていて、(黒い顔の中で)目がぎよろぎよろとして、まはたきしている。

男は(女の顔を)見ると、驚きあきれて、「奇妙なことだ」と思って、「どうしようか」と恐ろしく思ったので、近くにも寄らないで、「まあ、しばらくしてから参りましょう」と言って、ちよつと見るのも気味が悪かったので、立ち去ってしまった。

女の両親は、(男が)やって来たと聞きつけて(娘のもとに)来たのだが、(侍女が)「もうお帰りになりました」と言うので、(両親は)驚きあきれ「未練のない(男の)お心であることよ」と言って、姫君の顔を見たところ、たいそう恐ろしい形相になっていた。怖くなって、両親も倒れてしまった。

問1 たとうがみ 問2 (イ)

問3 a ㍡ (ア) b ㍡ (エ) c ㍡ (ア) d ㍡ (ウ) e ㍡ (エ) 問4 (イ)

問5 お入りにならないで。(10字)

問6 あなたは、たいそう早くも私のことをお嫌いになってしまったのですね。

問7 男(1行目)

理解を深める

① この男は、思い立つとじっとしていられない性分で、「ちょっと新しい妻のところへ行ってみよう」と、新しい妻のもとに昼間なのによつて来るのを侍女が見て

② 男は女の顔を見ると、驚きあきれて、「奇妙なことだ」と思って、「どうしようか」と恐ろしく思ったので、女の近くにも寄りたくないで

③ 女の両親は、男がやって来たとき聞いて娘のもとに来たのだが、侍女が「もうお帰りになりました」と言うので、両親はたいへん驚きあきれ



Z-KAI

会員番号	
------	--

氏名	
----	--